



【問い合わせ先】電話(昼間) 045-211-1118
(マリンレジャー安全推進室)
交通部企画課
課長補佐 加賀谷 寿美 (内線2611)

平成19年7月5日
13時00分発表
第三管区海上保安本部

「海で楽しく、安全に」 ～夏季マリンレジャーシーズンにおける事故防止について～

間もなく本格的なマリンレジャーシーズンを迎えるに当たり、プレジャーボート愛好者や遊泳者が、事故なく楽しく安全に過ごして頂くため、過去3年間の海難事故を分析し、事故を防止するための留意事項等をまとめました。

【プレジャーボート海難事故】

1 過去3年間の海難事故の分析

プレジャーボート海難では、過去3年間に於いて7月、8月の発生が多く、この2ヶ月間で全体の3分の1を占めています。また、曜日については日曜日が最も多く、次が土曜日で、土日の発生が全体の6割を占めています。その他に次のような特徴が認められました。

(1) 地域別

三浦半島周辺から湘南方面での海難が全体の約4割を占めています。

(2) 船種別

プレジャーボートの中では、モーターボートが5割弱で最も多く、次いで水上オートバイ、クルーザーボート、クルーザーヨットの順となっています。

クルーザーボートやクルーザーヨットとは、船室のあるタイプのボートやヨット

(3) 海難の種類と原因

海難の多い船種毎に海難の種類と主な原因を見ると

モーターボート

海難の種類では、機関故障(30%)、衝突(23%)、転覆・浸水(14%)が多く、それぞれ主な原因は次のとおりです。

愛します! 守ります! 日本の海

機関故障・・・整備不良、取扱不注意

衝突・・・・・・・見張り不十分

転覆・浸水・・・気象・海象不注意

水上オートバイ

海難の種類では、衝突(40%)、運航阻害(25%)が多く、それぞれ主な原因は次のとおりです。

衝突・・・・・・・操船不適切、見張り不十分

周囲を確認せずに急旋回

追走してきた仲間の水上オートバイが避けきれず衝突

運航阻害・・・船体機器整備不良、乗船者の行方不明等

航走可能な時間を把握しておらず、ガス欠

「運航阻害」は、船体や機関に故障はないが正常に運航できない状態

2 海難原因における分析

(1) プレジャーボート全般

プレジャーボート海難を発生原因別に見ると、

見張り不十分(16%)、操船不適切(15%)、気象・海象不注意(13%)

の順ですが、機関の整備不良と船体機器の整備不良を合わせると19%になり最も多くなります。

これらのことから、プレジャーボートは週末に、たまにしか運航されないというケースが多いため、各部の点検や整備が不十分だったり、事前に水路調査をしていなかったり、多少天候が悪化していてもそのまま出航してしまうことが伺えます。

(2) ミニボートの海難

平成15年に実施されたボート免許の改正により長さ3メートル未満、出力1.5kw以下のボート(通称:ミニボート)は、免許や検査なしで乗船できるようになりましたが、最近このミニボートによる海難が増えています。全体に占める割合は、まだ僅かですが、16年4件、17年4件、18年9件となっており、昨年から急増してします。主な海難とその内容は

転覆・浸水(7件)・・・気象・海象不注意、その他

波を受けて転覆、人が船上でバランスを崩し転覆
機関故障(5件)・・・取扱不注意

燃料の混合比不良、燃料タンクのエア抜き未開放

これらのことから、ミニボートの乗船者は、船についての基本的な知識が不足していたり、海上でのルールやマナーを知らない人が多いと考えられます。

3 遵守すべき事項

海難事故の発生を防止するためには、やはり**基本的なことを遵守する**ことが大切です。安全に楽しく過ごすために次の事項をきちんと守りましょう。

- (1) 事前に天候の確認と航行ルートの調査を実施しましょう。
- (2) 船を出航させる前に、各部の点検や整備を十分実施しましょう。
- (3) 船の性能や機器の取扱い方法の習熟に努めましょう。
- (4) 運航中は見張りを励行し、船位の確認に努めましょう。
- (5) 自己救命策確保の3つの基本(ライフジャケット着用、防水パック入り等の携帯電話携帯、118番の活用)を徹底しましょう。
- (6) 海上交通ルールとマナーを守り、危険な操縦は慎みましょう。

【海浜事故】

1 遊泳者の事故

マリッジジャーに伴う海浜事故では、過去3年間において遊泳者の事故が最も多く、そのうち約9割が7月～9月に発生しています。その他に次のような特徴が認められました。

(1) 年齢層

海水浴場等での遊泳中の事故は、幅広い年齢層で発生していますが、13歳から26歳までの年齢層の事故が、全体の半分(50%)を占めています。

(2) 曜日

日曜日、土曜日の順に多く、全体の55%が土日に発生しています。

(3) 時間帯

1200から1500までの間の発生が54%、1200から1600までの間の発生が3分の2(67%)を占めており、日中の午後に多く発生しています。

(4) 地域別

勝浦市や九十九里浜などの千葉県外房、三浦半島や湘南方面で事故が多く発生しています。

(5) 遊泳場所

遊泳禁止海域や海水浴場であっても強風や夜間のため遊泳が禁止されている時間帯での事故が多く発生しており、全体の55%が遊泳禁止場所等で発生しています。特に13歳から26歳の年齢層の場合、71%が遊泳禁止場所等で発生しています。

(6) 事故原因

事故の原因としては、自己過失が最も多く約9割を占め、その内訳は、知識・技能不足(28%)、周辺環境に対する不注意(23%)、気象・海象不注意(18%)、無謀な行為(13%)となっています。

2 海難原因における分析

(1) 遊泳者の事故

「知識・技能不足」では泳力不足、「周辺環境に対する不注意」では沖合に流される、「気象・海象不注意」では波に引き込まれる、といった事故が多数発生しています。

自己過信

例年、遊泳者の事故が多数発生していますが、その多くは当日の風や波と、自らの泳力や体調を過信してしまい、溺れたり、沖合いに流され戻れなくなるといった事故です。これらは本人の泳力不足と、このくらいなら大丈夫だろうという**油断が原因**と考えられます。

海水浴場以外での事故

海水浴場は、地形や潮流などを事前に調査し、監視員やライフセーバーなどにより安全管理がなされ、比較的安心して海水浴の楽しめる場所です。これに対し、海水浴場以外の場所は、海底地形が急に深くなったり、早い潮流があるなどの理由で遊泳に適さない場所です。しかし、例年これらの遊泳禁止海域での事故が多く発生しています。

特に茨城県波崎町から茨城県大洗町までの鹿島灘海岸には、海岸線の侵

食を防ぐためヘッドランド(人工岬)というT字型をした砂防堤が約30基あり、この周辺では複雑な潮の流れや、離岸流(沖出しの強い流れ)が発生したり、場所によっては海底が急に深くなっていることがあり、遊泳には大変危険な場所となっています。

飲酒

飲酒が原因で遊泳中に事故に遭った人は過去3年間で20人に上っています。昨年の例として、友人とバーベキューのため海水浴場以外の海岸を訪れ、バーベキューを楽しみながら飲酒して盛り上がり、その後海に入って溺れてしまったという事故では死亡者も出ています。また、睡眠不足のまま海水浴場にきて飲酒のうえ遊泳中に溺れたものや、飲酒のうえ岩場から何度か海に飛び込んでいたうちに溺死してしまった事故も発生しています。

アルコールは人間の判断力、運動能力、その他の感覚を鈍らせるため、飲酒後の遊泳は事故を引き起こす大きな要因になると考えられます。

(2) 磯遊び等の事故

マリッジシーズンにおける海浜事故の特徴として、海水浴場などでの遊泳中の事故だけでなく、磯場で遊んでいる際の海中転落や波にさらわれる事故、磯遊び中に潮が満ちて戻れなくなる孤立事故や深みにはまって溺れる事故などが発生しています。これらの事故は、もともと海の中に入るつもりではないため、海に落ちた場合の備えをしておらず、事故が発生した際に助けを求めても周りに誰もいなかったり、連絡が取れない等の悪条件となっています。

過去3年間で磯遊びや潮干狩り等の理由で47人が海浜で事故に遭っていますが、このうち約半数の23人が死亡しています。

(3) 釣り中の事故

マリッジに関する海浜事故の中で、釣り中の事故者数は遊泳中の事故者に次いで多い約18%となっています。釣りは夏場だけでなく、周年にわたり楽しめるものですが、釣り中の事故者の人数は夏場が若干多くなっています。平成19年のゴールデンウィークに実施したライフジャケットの着用率調査では、釣り愛好者の着用率は約12%(昨年度約24%)で、低い着用率となっています。

3 注意すべき事項

海で楽しく、安全に過ごすためには、第一に**無理をしない**ことが大切です。海水浴等で浜辺や磯に行く際は次のことに注意しましょう。

- (1) 海水浴場では、自分の体力や技量に見合った遊泳を楽しみましょう。無理せず常に余力を残しましょう。
- (2) 海水浴場以外での遊泳は、離岸流などの予期せぬ流れもあり大変危険です。海水浴は海水浴場で楽しみましょう。特に中学生から 20 代後半までの人は、体力に自身があるためか、リスキーな場所を選ぶ傾向があるので注意しましょう。
- (3) 飲酒後の遊泳は死亡事故の誘因となります。飲酒後の遊泳は厳に慎んで下さい。
- (4) 磯や岩場など海に落ちるかもしれない場所に行く際は、自己救命策確保の3つの基本(ライフジャケット着用、防水パック入り等の携帯電話携行、118番の活用)を励行しましょう。

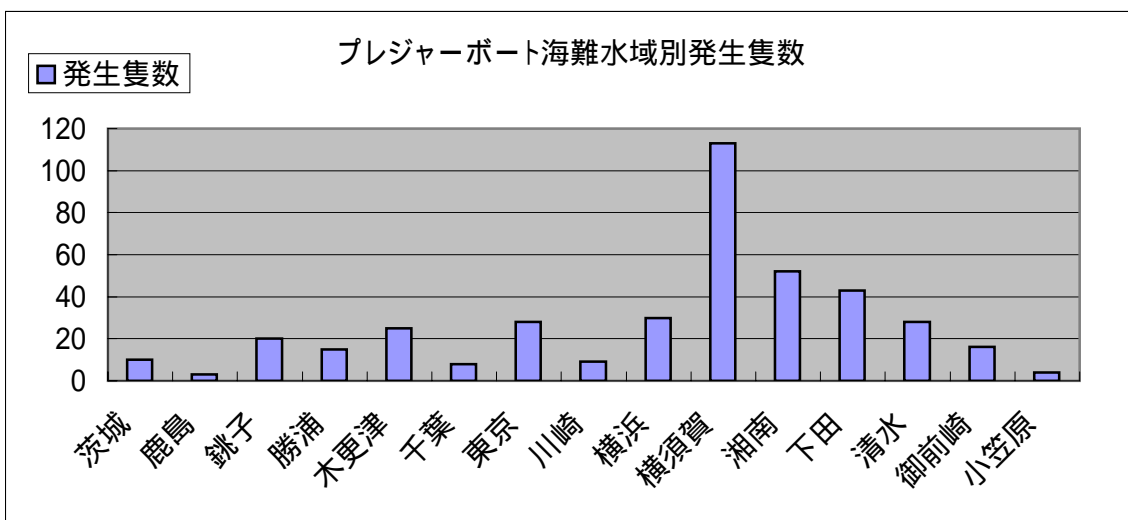
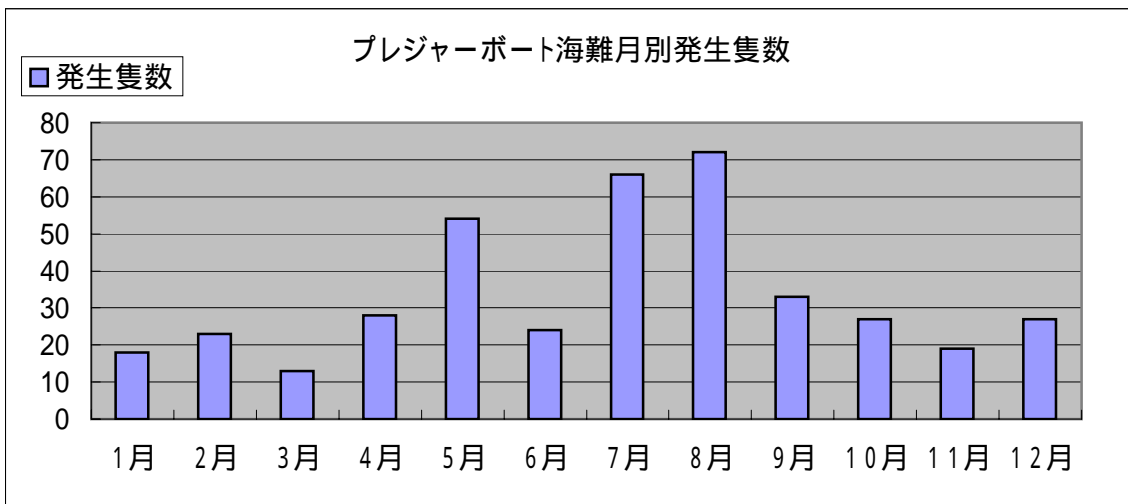
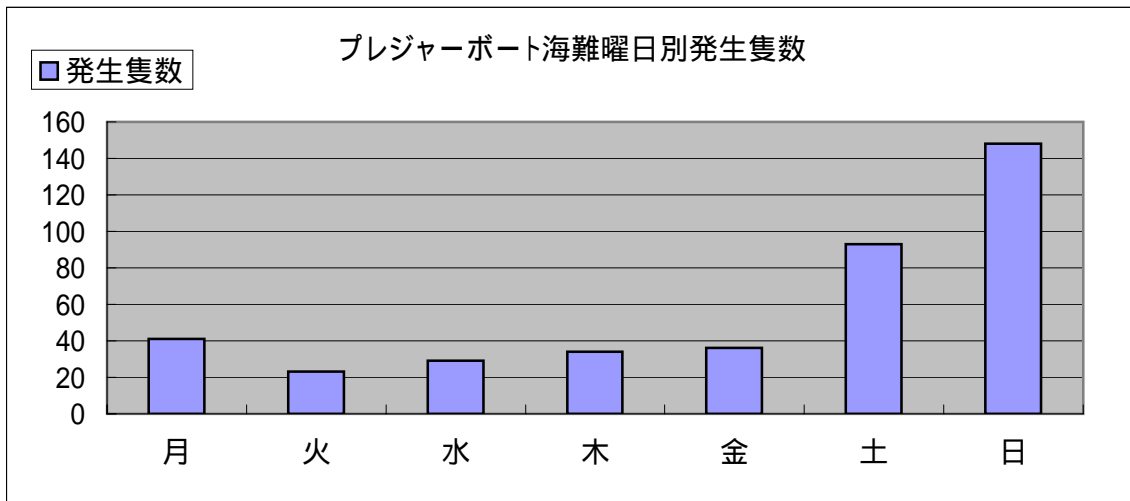
【離岸流CD】

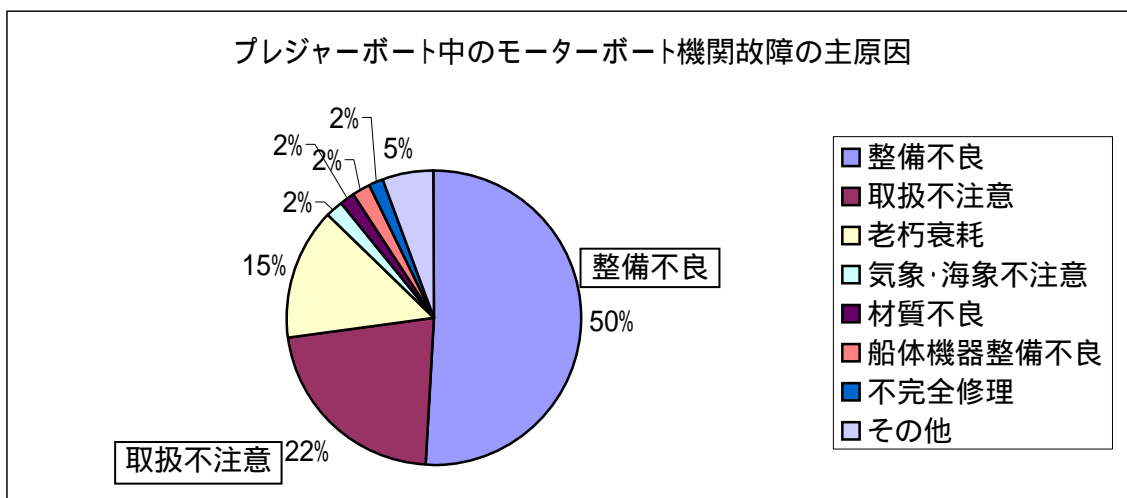
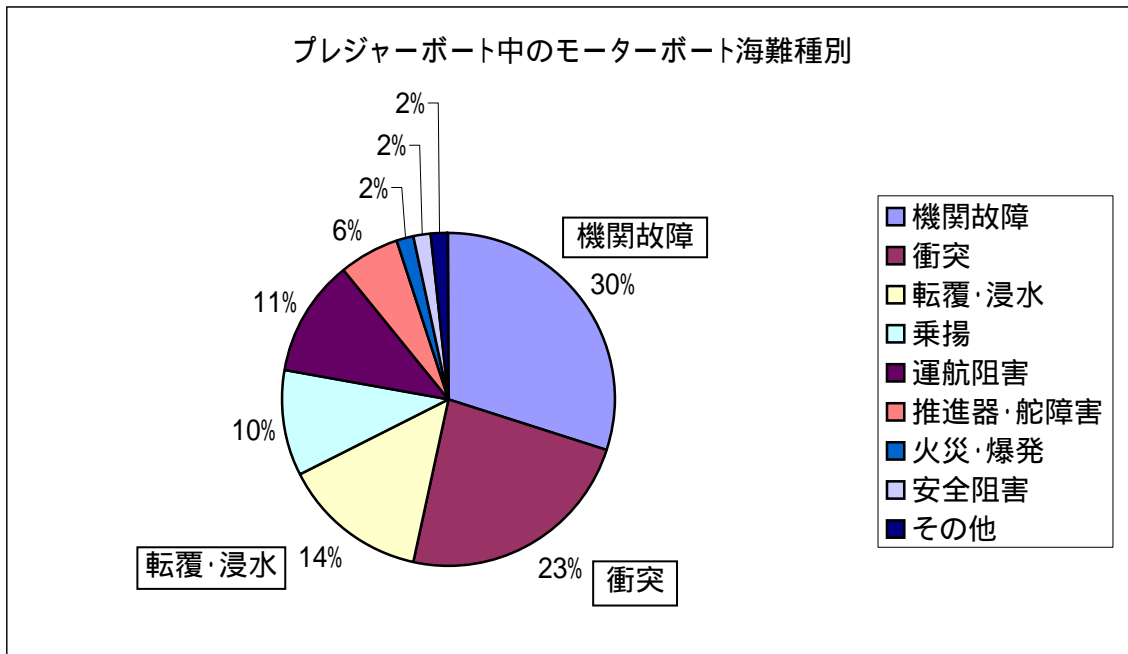
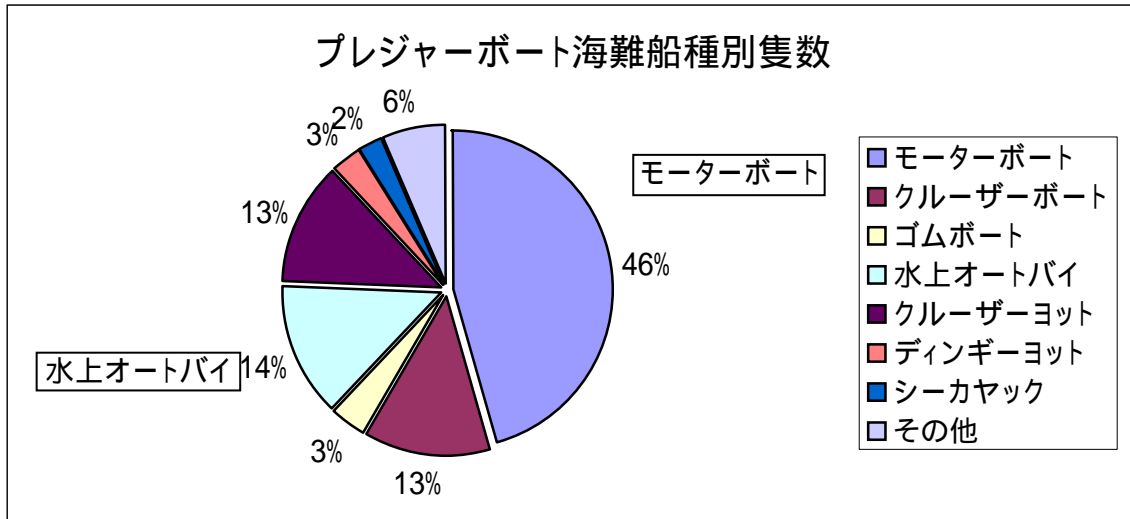
第三管区海上保安本部マリレジャー安全推進室では、「海で楽しく安全に遊ぼう！(離岸流による海浜事故を防ぐために)」と題したCDを作成し、離岸流での事故防止に努めております。本CDの配布を希望される方は、第三管区海上保安本部マリレジャー安全推進室まで、お申し込み下さい。

愛します! 守ります! 日本の海

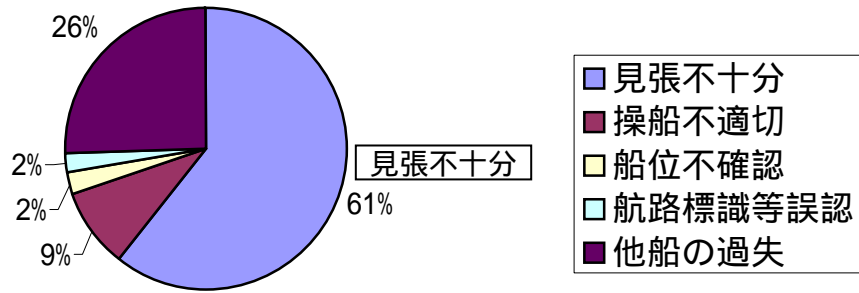


プレジャーボート海難(04～06年)

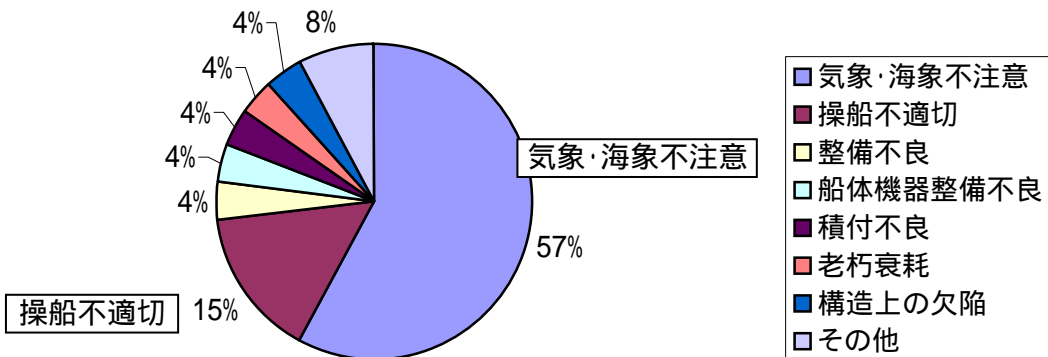




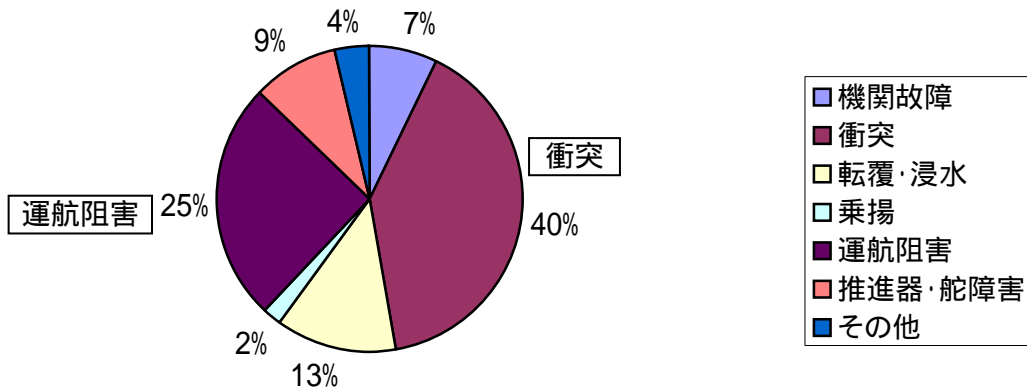
プレジャーボート中のモーターボート衝突の主原因



プレジャーボート中のモーターボート転覆・浸水の主原因



プレジャーボート中の水上オートバイ海難種別



水上オートバイ衝突の主原因

